

**2021年3月期第1四半期決算**  
**IR説明会（2020/8/4開催）質疑応答内容**

**【質問者1】**

- Q：今回、金属・資源本部の見通しを修正し、その結果、通期見通しを100億円下方修正しが、この内訳と今後の見通しについて教えて頂きたい。
- A：金属・資源本部で合わせて100億円の下方修正をしたが、約半分の50億円が鉄鋼製品の需要減少、残り半分が主に石炭市況の下落によるもの。石炭については、期初見通しでもご説明した通り、一般炭の平均価格を通期で概ね63.8ドル、原料炭については135ドルと見込んで、この計画を立てた。今回、これを足元のスポット価格及びそれに基づいたフォワード価格に置き換え、石炭関連の通期見通しを変更した。第1四半期終了時点での販売数量は、年間見通しに対して、30%～35%を確保している。従って、通期見通しの変更は、販売数量ではなく、あくまでも価格の下落によるものと考えている。
- Q：現時点のコロナ影響は、どういう前提となっているのか。
- A：期初見通しにおいて、通期のコロナ影響を全体で230億円とみていた。それに対し、鉄鋼需要の減少や石炭市況の低迷の影響を見込み、修正見通しに織り込んだ100億円に加え、国内外ロックダウンによる一部商業施設・店舗の閉鎖に伴う消費の減退などの影響で30億円程度の影響が出ており、全体として360億円と見込んでいる。このうち、第1四半期でのコロナ影響は140億円程度と認識している。従って、第2四半期以降に残りの220億円程度が出てくると見込んでいるが、やはり第2四半期での影響額が大きく、残りの約半分程度の影響が出てくると見込んでいる。

**【質問者2】**

- Q：修正後見通しにおいても構造改革費用50億円を残しているように見受けられるが、今後のリスクとして見ておいた方が良い点はあるか。
- A：現時点で構造改革費用を充て込まなくてはならないような懸念案件は認識していない。資源、非資源にかかわらず、次期中期経営計画以降の収益力、収益率の向上に資するものが、こういったところにあるのか、社内で整理している。この整理が終わり次第、実行に移していきたいと考えている。
- Q：第1四半期の新規投融資実績は110億円と進捗が弱く見える。今後の見方について教えて頂きたい。併せて、投融資からの収益貢献、修正後見通しに対する進捗と今後の見方についても教えて頂きたい。
- A：期初見通しの段階では、新規投融資からの収益積上げの増分として80億円を計画していたが、コロナ影響などを踏まえ、今回、通期業績見通しを100億円下方修正したが、新規投融資からの収益貢献についてもその影響を一部織り込み、引き下げを行っている。  
新規投融資の出足としては、コロナ影響によるデューデリジェンスの遅れなどもあり、あまり芳しくない状況だが、次期中期経営計画にも繋がってくるものでもあるため、しっかりとやっていきたいと思っている。

**【質問者3】**

Q：金属・資源本部の業績見直し修正の大部分が価格要因とのことだが、第1四半期の生産と販売の状況がどうだったかを教えて頂きたい。また、中国での石炭輸入規制の影響を教えて頂きたい。

A：グレゴリー炭鉱に絞ると、生産数量と販売数量に大きな差はなく、第1四半期実績は約25-35万トン程度。石炭事業の第1四半期は約5億円程度の純利益を見込んでいたが、実績としては下振れた。この大部分が価格の影響、残りの要因が採炭コスト増及び数量減少となっている。また、中国の輸入規制の影響についてだが、中国向けに依拠した石炭の事業経営はやっていないものの、輸入規制の影響を完全に回避できる状況ではない。

Q：食料・アグリビジネス本部の進捗が良いが、今後の見直しを教えて頂きたい。

A：コメ価格回復や原料価格の低位安定、そして例年通りの降水量が5、6月にあったことを背景に、主要事業である海外肥料3事業の業績が堅調に推移し、前年同期比で収益改善した。7月は例年タイの肥料需要期ではあるが、若干降水が少なかったと聞いている。ただし、昨年度程厳しい状況ではなく、今期の肥料事業については、ほぼ想定通りの数字となると考えている。

**【質問者4】**

Q：航空産業・交通プロジェクト本部の通期見通しが60億円となっている一方で、第1四半期実績は5億円の赤字となっているが、大口案件の内容及び今後の見直しを教えて頂きたい。

A：大口案件については今期だけの取り組み案件となる。昨今の航空業界は、トラフィックボリュームが落ちており、当社の主力事業の一つである、パーツアウトやビジネスジェット事業は厳しい状況にあると認識しているが、防衛関係事業を含めた、オーガニック成長する事業を取りこぼさなくやっていくとともに、大口案件の確保に取り組んでいく。

Q：販売費及び一般管理費の第1四半期実績が前年同期比40億円良化した一方で、通期見直し1,650億円に据え置きとしているが、今後の考え方について教えて頂きたい。

A：コスト改善の年間見直し額としてお示した80億円に対して、第1四半期で前年同期比40億円削減という結果となった。今後もコスト削減は進めていくが、まずは期初にお示した、前年比80億円の減少を一つのターゲットとして進めていく。

以上